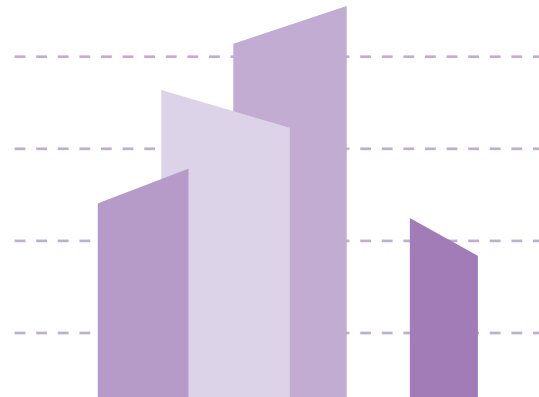




第2部 岩手のくらし

第2章 家族・子育て

～家族の形に応じたつながりや支え合いが生まれ、
また、安心して子育てをすることができる岩手～



1 安心して子どもを産み育てられる環境

安心な子育て環境整備について不満が満足を上回る

■ 安心な子育て環境整備について不満が満足を上回る

令和7年県の施策に関する県民意識調査によると、「安心して子どもを産み育てられ、子育てがしやすい環境であること」について、重要（「重要」＋「やや重要」）と回答した人の割合は、県計で77.0%となっており、広域振興圏別では、県央で78.1%と最も高くなっています（図1）。

また、不満（「不満」＋「やや不満」）と回答した人の割合は、県計で24.8%となっており、満足（「満足」＋「やや満足」）の24.0%を上回っています。広域振興圏別では、不満の割合が最も高いのが県南で28.3%となっています（図2）。

■ 待機児童数は減少

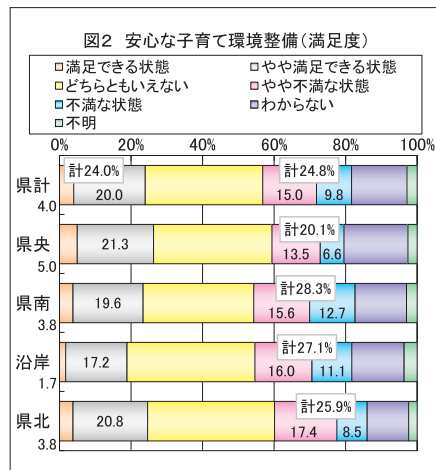
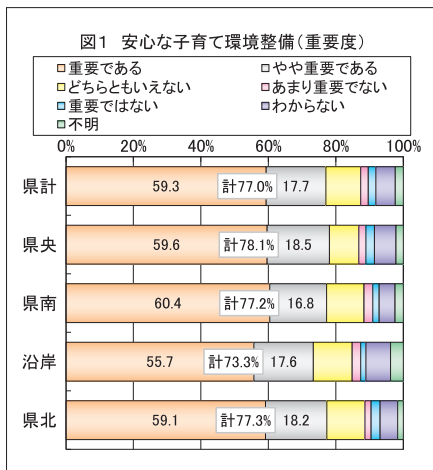
本県の保育所利用児童数は全国と同様に概ね増加傾向で推移していましたが、令和2年（2020年）をピークとして翌年から減少に転じています（図3）。

また、本県の保育所待機児童数は、令和7年（2025年）4月1日現在5人と、令和6年（2024年）より減少しています（図4）。

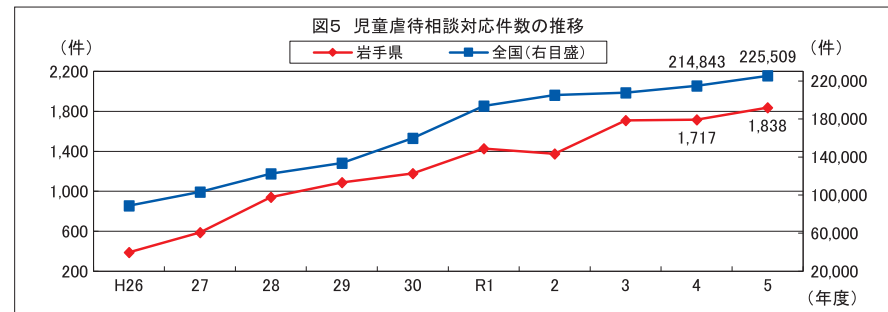
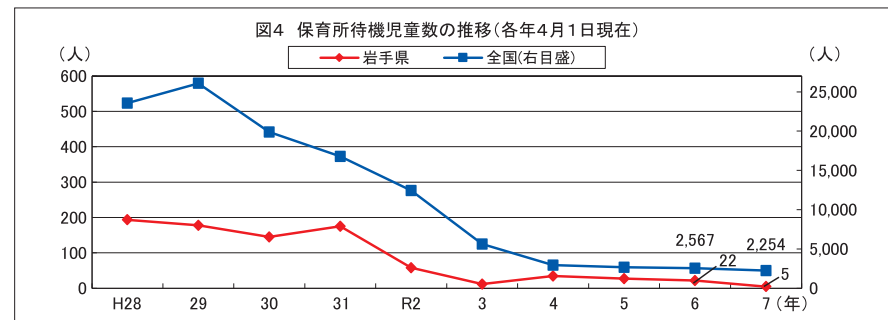
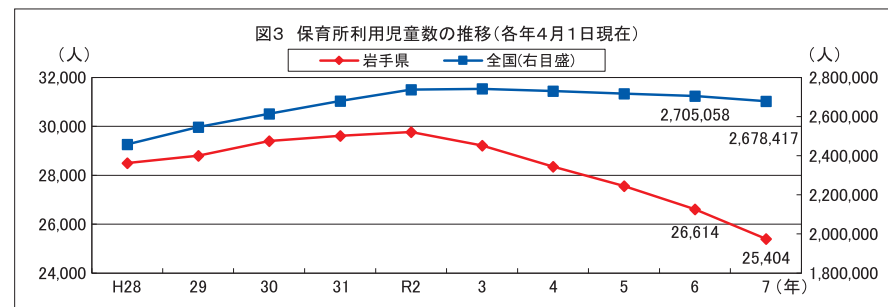
■ 児童虐待相談対応件数は増加

児童虐待相談対応件数は、全国では一貫して増加傾向にあり、本県においても概ね増加傾向で推移しています（図5）。

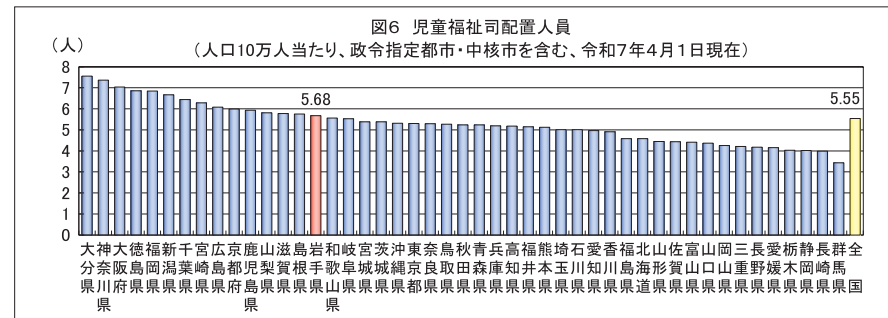
なお、本県の児童相談所における児童福祉士の配置状況は、令和7年（2025年）4月1日現在、人口10万人当たり5.68人で、全国平均の5.55人を上回っています（図6）。



以上資料：県ふるさと振興部「令和7年県の施策に関する県民意識調査」



以上資料：こども家庭庁、厚生労働省



資料：こども家庭庁、総務省統計局「人口推計」

2 学校と家庭、住民が協働して支える子どもの育ちと学び

放課後児童クラブの待機児童数は2年連続で増加

■ 学校行事や地域で子どもを育てる活動に参加している人は約2割

令和6年県民生活基本調査によると、「学校行事や地域において子どもを育てる活動に参加している」と回答した人の割合は19.1%となっており、令和4年の18.3%を上回っています(図1)。

活動の内容は、「PTA活動や運動会などの学校行事」が最も多く66.1%、次いで「あいさつなどの声かけ運動」の61.9%、「地区子ども会活動」の54.6%の順となっています(図2)。

■ 地域学校協働活動等の取組等によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まったと回答した児童生徒の割合は小中学校共に東北で2番目

令和7年度全国学力・学習状況調査によると、「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった」(「そう思う」+「どちらかといえば、そう思う」)と回答した本県の児童生徒の割合は、小学校が97.7%、中学校が93.1%となっています。

東北各県及び全国平均と比較すると、小学校は東北6県で2番目となっており、全国平均93.3%を上回っています。また、中学校も東北6県で2番目となっており、全国平均の89.0%を上回っています(図3)。

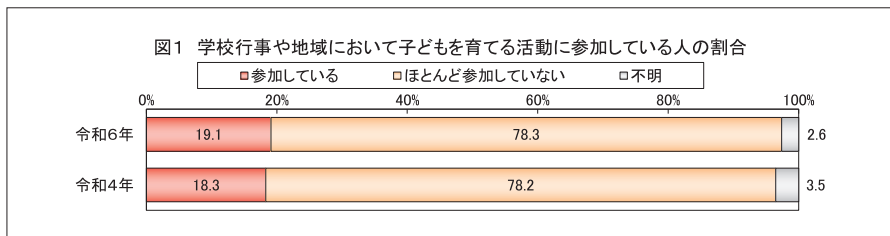
(注)「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった」の設問に「そう思う」又は「どちらかといえば、そう思う」と回答した学校の割合

■ 放課後児童クラブの待機児童数は2年連続で増加

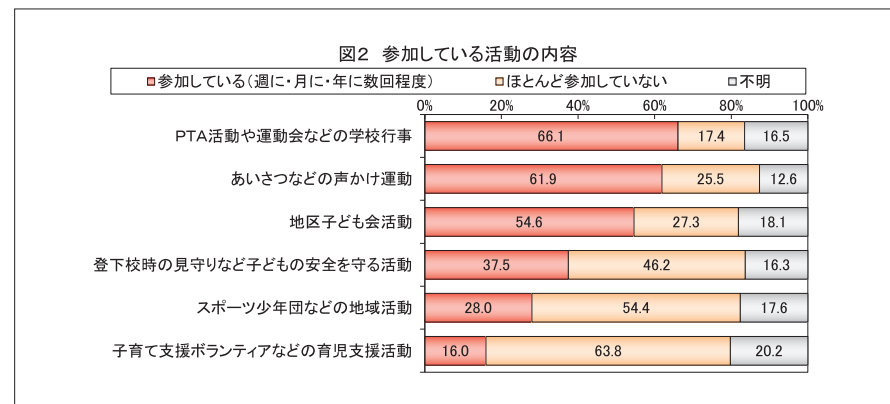
共働き家庭の増加などにより、小学校に就学している児童に放課後の適切な遊びや生活の場を提供する安全・安心な居場所づくりの充実がさらに求められており、放課後児童クラブの役割は重要なものとなっています。

令和7年(2025年)の本県の放課後児童クラブ数は、前年比3か所増の362か所となり、2年連続で増加しました。

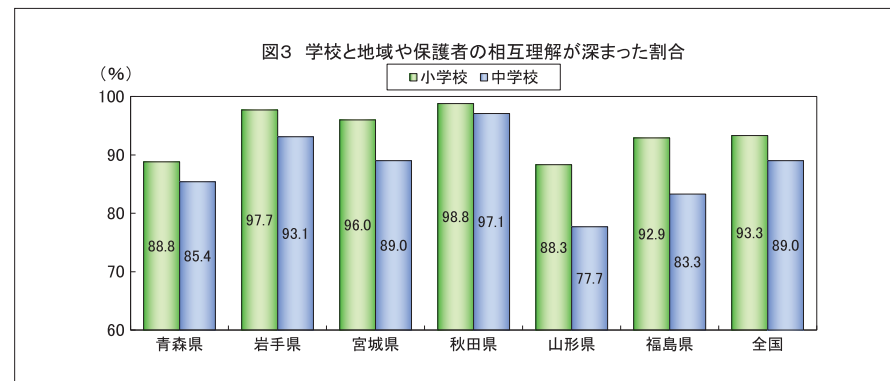
一方、令和7年の本県の放課後児童クラブ待機児童数は、前年比52人増の189人となり、2年連続で増加しました。



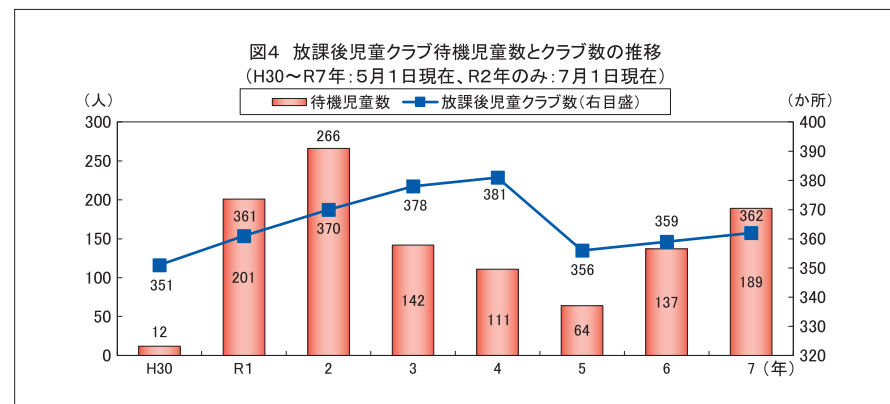
資料：県ふるさと振興部「令和6年県民生活基本調査」



資料：県ふるさと振興部「令和6年県民生活基本調査」



資料：国立教育政策研究所教育課程研究センター「令和7年度全国学力・学習状況調査」



資料：厚生労働省、こども家庭庁「令和7年放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)の実施状況」

3 健全で、自立した青少年の育成

今住んでいる地域が好きな中・高校生の割合は9割台前半

■ 中・高校生が参加した社会活動は「地域のお祭り・盆踊り」が最多

令和6年度青少年の健全育成に関する意識調査によると、本県の中・高校生（注）が入学後に参加した社会活動は、「地域のお祭り、盆踊り」（60.2%）が最も多く、次いで「地域の清掃、環境美化運動、老人ホーム訪問などのボランティア活動」（41.7%）、「レクリエーションやスポーツ大会・運動会」（29.6%）の順になっています。

前回（令和3年度）調査と比較すると、「地域のお祭り、盆踊り」が14.5ポイント上昇する一方、「地域の清掃、環境美化運動、老人ホーム訪問などのボランティア活動」は7.5ポイント低下しています（図1）。

（注）中・高校生：中学生、義務教育学校後期課程の生徒、高校生

■ 今住んでいる地域が好きな本県の中・高校生の割合は9割台前半

令和6年度青少年の健全育成に関する意識調査によると、今住んでいる地域が好きな（「好きである」＋「どちらかといえば好きである」）本県の中・高校生の割合は、92.7%となっています（図2）。

これを男女別にみると、男性（94.5%）が女性（91.1%）を3.4ポイント上回っています。

また、広域振興圏別にみると、県南（95.4%）が最も高く、次いで県央（93.2%）、県北（89.2%）の順となっています（図3）。

■ 中・高校生の刑法犯少年の検挙・補導人員は全国平均を下回る

令和6年（2024年）の本県の中学生・高校生の刑法犯検挙・補導人員は、中学生、高校生が共に、生徒数1,000人当たり1.5人となっており、全国の中学生2.6人、全国の高校生3.2人をいずれも下回っています。なお、全国順位でみると、本県は8番目に検挙・補導人員が少なくなっています（図4）。

■ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童・生徒は全国平均を上回る

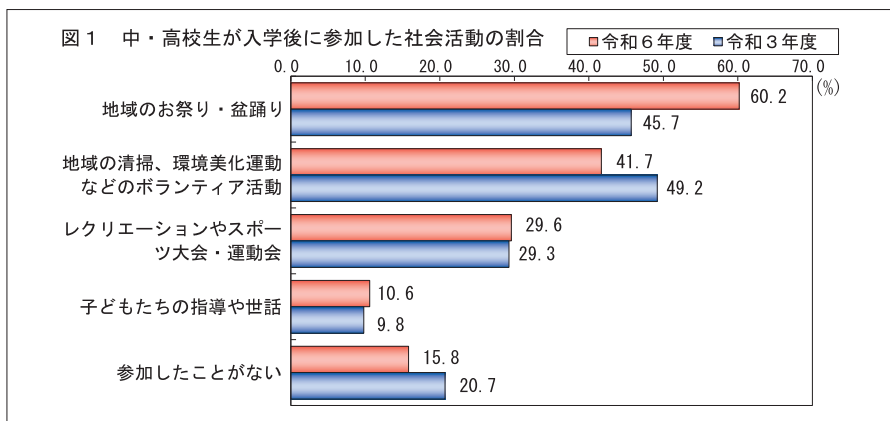
令和7年度全国学力・学習状況調査によると、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うと回答（注）した本県の児童の割合は、84.0%となっており、全国平均の81.3%を2.7ポイント上回っています。

また、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うと回答（注）した本県の生徒の割合は81.0%となっており、全国平均の75.3%を5.7ポイント上回っています（図5）。

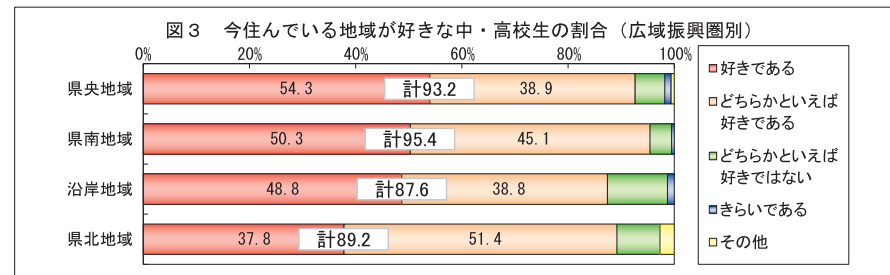
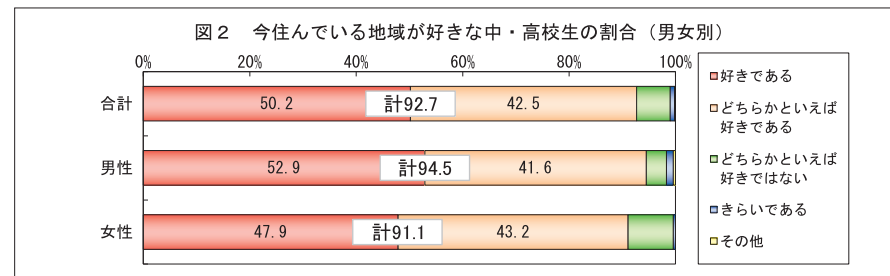
※ 児童は小学校第6学年、生徒は中学校第3学年を調査対象としている。

（注）地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う割合：

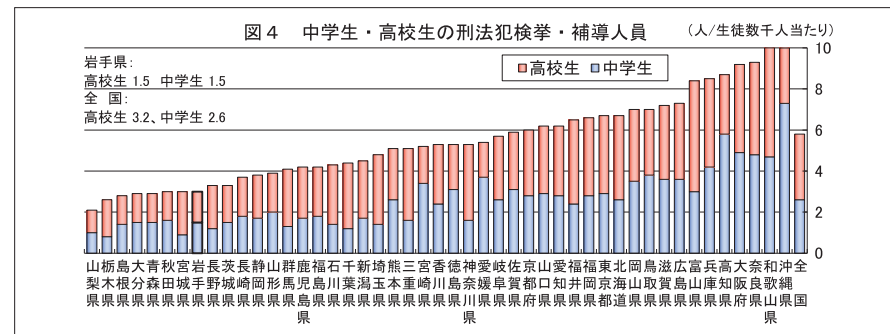
「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の設問について、「当てはまる」又は「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合の計。



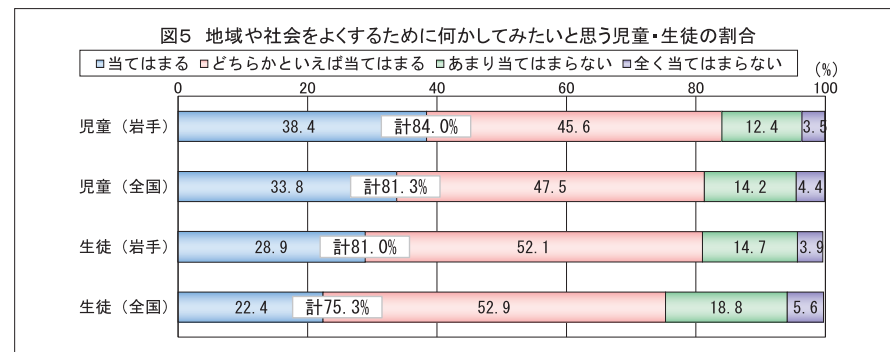
資料：県環境生活部「令和6年度青少年の健全育成に関する意識調査」



以上資料：県環境生活部「令和6年度青少年の健全育成に関する意識調査」



資料：警察庁「令和6年中における少年の補導及び保護の概況」



資料：国立教育政策研究所教育課程研究センター「令和7年度全国学力・学習状況調査」

4 仕事と生活を両立できる環境

仕事と生活を両立できる環境は満足が不満を下回る

■ 仕事と生活を両立できる環境は満足が不満を下回る

令和7年県の施策に関する県民意識調査によると、「仕事と生活を両立できる環境であること」について、重要（「重要」＋「やや重要」）と回答した人の割合は、県計で81.6%となっています（図1）。

また、満足（「満足」＋「やや満足」）と回答した人の割合は、県計で24.3%となっており、不満（「不満」＋「やや不満」）の28.8%を下回っています（図2）。

■ 年次有給休暇の平均取得日数は全国平均を上回る

中小企業労働事情実態調査によると、令和6年度（2024年度）の本県の従業員1人当たり年次有給休暇取得率は、64.0%と全国平均の64.2%をわずかに下回り、全国では29番目、東北では3番目となっています（図3）。

また、令和6年度の本県の従業員1人当たり年次有給休暇平均取得日数は、10.32日と全国平均の10.00日を上回り、全国では11番目、東北では3番目となっています（図4）。

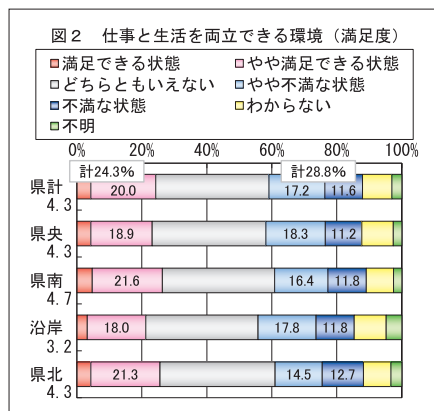
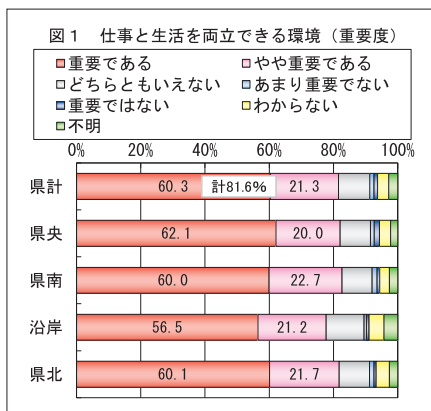
■ 育児休業等制度利用率、介護休業等制度利用率は共に女性が男性を上回る

令和4年就業構造基本調査によると、令和4年（2022年）の本県の育児休業等制度利用率（注1）は27.6%となっています。男女別にみると、男性が15.9%、女性が39.0%となっており、女性が男性を23.1ポイント上回っています。東北では、男女とも2番目となっています（図5）。

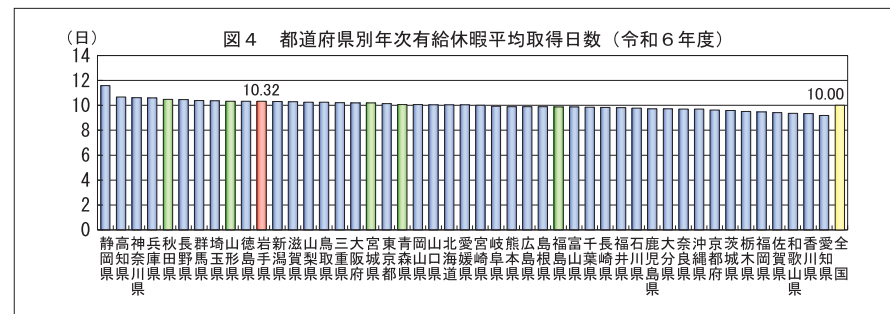
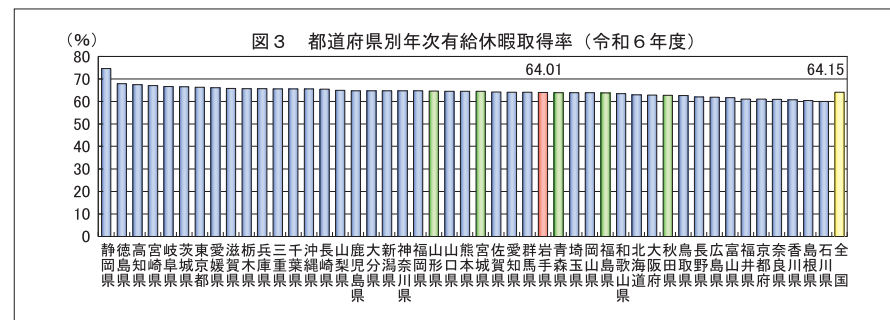
また、令和4年の本県の介護休業等制度利用率（注2）は12.2%となっています。男女別にみると、男性が10.4%、女性が13.2%となっており、女性が男性を2.8ポイント上回っています。東北では、男性が3番目、女性が2番目となっています（図6）。

（注1）有業者で育児をしている者のうち、育児休業等制度の利用がある割合

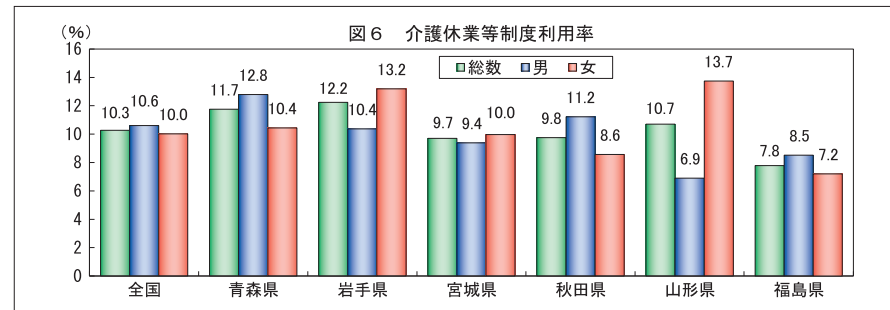
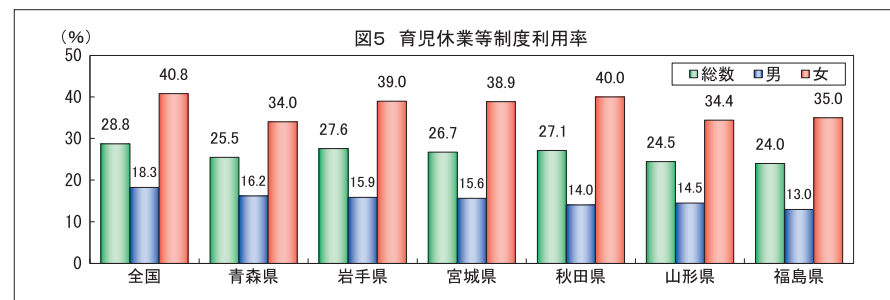
（注2）有業者で介護をしている者のうち、介護休業等制度の利用がある割合



以上資料：県ふるさと振興部「令和7年県の施策に関する県民意識調査」



以上資料：全国中小企業団体中央会「令和7年度 中小企業労働事情実態調査」



以上資料：総務省統計局「令和4年就業構造基本調査」

5 動物のいのちを大切にす社会

犬猫の引取り数、殺処分数は共に減少傾向

ペットなど動物のいのちを大切にす社会については約7割が重要と回答

令和7年県の施策に関する県民意識調査によると、「ペットなど動物のいのちを大切にす社会であること」について、重要（「重要」＋「やや重要」）と回答した人の割合は、県計で68.1%となっています（図1）。

また、満足（「満足」＋「やや満足」）と回答した人の割合は、県計で25.7%となっており、不満（「不満」＋「やや不満」）の12.1%を上回っています（図2）。

全国を上回る狂犬病予防注射接種率

本県の犬の登録頭数は年々減少しており、令和6年度（2024年度）は54,183頭で平成27年度（2015年度）と比べると、2割以上減少しています。

一方、狂犬病予防注射接種率（注）は、全国を上回りながら、8割台で推移しています（図3）。

（注）狂犬病予防注射接種率：予防注射済票交付数／犬の登録頭数×100

犬猫の引取り数、殺処分数は共に減少傾向

本県の犬猫の引取り数及び殺処分数は、共に減少傾向で推移しています。

また、平成25年（2013年）9月1日に施行された改正動物愛護管理法で、引き取った犬猫の返還・譲渡に関する努力義務が設けられ、犬猫の殺処分数は平成26年（2014年）以降、減少傾向となっています（図4、5）。

全国平均を上回る犬猫の返還・譲渡率

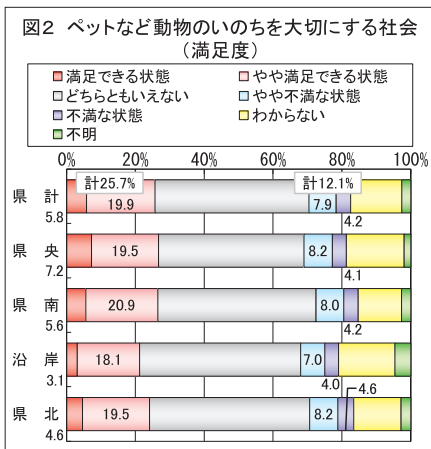
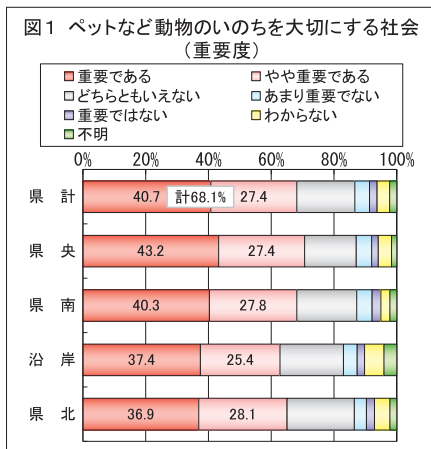
令和5年度（2023年度）の本県の犬の返還・譲渡率（注）は、101.5%となっています。

全国と比べると、11.9ポイント上回っており、4番目に高くなっています（図6）。

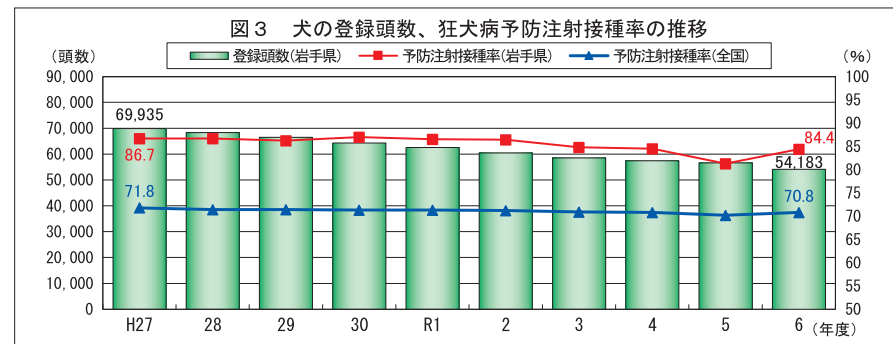
また、令和5年度の本県の猫の返還・譲渡率は、86.3%となっています。

全国と比べると、13.3ポイント上回っており、15番目に高くなっています（図7）。

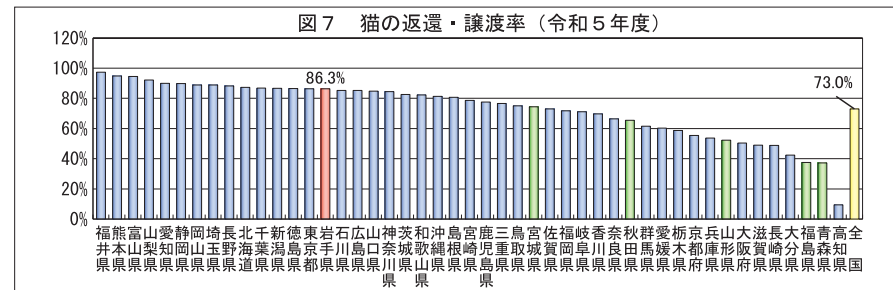
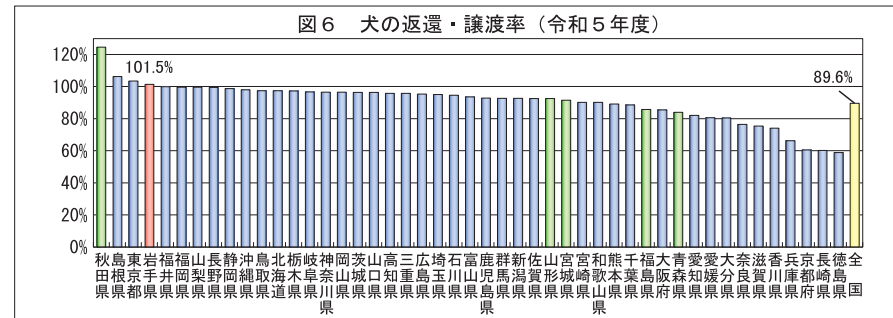
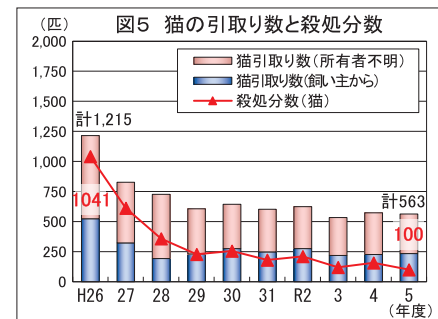
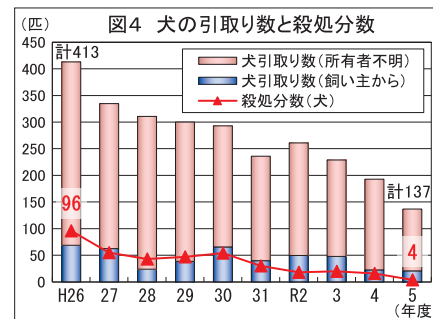
（注）返還・譲渡率：（返還数＋譲渡数）／引取り数×100



資料：県ふるさと振興部「令和7年県の施策に関する県民意識調査」



資料：厚生労働省「衛生行政報告例」



以上資料：環境省「動物愛護管理行政事務提要」